

## V 日高振興局

### 1. 重点プロジェクト

#### 【スターチスの新栽培技術・新品種の導入による産地強化】

##### スターチス電照栽培技術研修会を開催

8月3日、JA紀州がいなポートで、スターチス電照栽培技術研修会を開催した。この技術は、価格が高い冬場の切り花本数を2割以上増やす効果が期待でき、現地試験で効果を確認しながら普及に取り組んでいる。

研修会では、農研機構野菜花き研究部門の久松完上級研究員が「花き生産における情報としての光の活用」について講演し、植物がどのように光を感じ、成長に活かしているかなど電照栽培の基礎について説明を行った。続いて、暖地園芸センターの古屋主査研究員から電照栽培技術の研究成果、農業水産振興課の伊藤普及指導員から電照栽培技術の現地試験結果を説明した。

その後の意見交換では、「電照することによりスターチスの施設に隣接するほ場の他作物に影響はないか」などの意見が出され、質疑応答が行われた。



研修会には、生産者をはじめ30名が出席



意見交換で質問する生産者

### 2. 御坊市4Hクラブが夏の信州で研修を実施

御坊市4Hクラブ（中野光勝会長）の会員4名は、8月7～8日の日程で長野県を中心に県外研修を実施した。メンバー全員がスターチスの切り花栽培を行っていることから、苗生産の現場と種苗メーカーの育種の現状を見学した。

はじめに訪ねた柳平園芸は、(株)ミヨシの「サンデーバイオレット」の育苗を受託しており、園主から生育の揃った良苗を育てるには、天候など日々の環境に応じた灌水が重要であると説明を受けた。スターチス類専門の種苗メーカーであるTSメリクロン(株)では、進藤俊英社長から、スターチスが仏花だけに限らず、いろいろな場面で使ってもらえるようにすることが花材としての価値の向上に繋がるとお話があった。また、「我々は育種で頑張るので、みなさんは生産面で頑張ってください」とエールが送られ、メンバーも品種に求める要望を述べるなど有意義な意見交換がなされた。

そのほか、JA信州諏訪管内のトルコギキョウ生産状況とJAみなみ信州の農産物直売所「りんごの里」を見学し、研修会を終えた。



スターチスの受託育苗を営む柳平園芸



T Sメリクロン(株)で意見交換

### 3. 平成 29 年度「農トレ！ひだか」第 2 回セミナーを開催

8月24日、日高地方4Hクラブ連絡協議会（西山和克会長）と農業水産振興課の共催により、「農トレ！ひだか」第2回セミナーを開催した。「農トレ！ひだか」は、日高管内の4Hクラブ員をはじめとして、若手の農業者や管内で農業を始める予定の方等を対象とした研修会のことで、平成24年から始まり、今年度は3回の開催を予定している。

今回は、「和歌山県におけるGAPをめぐる情勢」をテーマとした講演会を印南町公民館で開催し、日高地方4Hクラブ員および若手の農業者、合わせて11名が参加した。

講演は当課の行森普及指導員が行った。内容は大きく分けて①GAPとは何かについての説明、②GAPをめぐる現在の情勢及び③和歌山県版GAPについてとし、スライドを使って説明した。

参加者からは、GAPを巡る現在の情勢や県版GAPの活用方法について質問があった。



「農トレ！ひだか」第2回セミナー



行森普及指導員による講演

### 4. 日高川町農業士会が県外研修を実施

日高川町農業士会（龍田雅人会長）は、8月30日に先進地研修を行った。

最初に訪問したJAならけんファーマーズマーケット「まほろばキッチン」（奈良県橿原市）は全国最大級の売り場面積を有する農産物直売所で、1,200名以上の方が出荷登録し、店内は農産物であふれていた。また産直レストランも併設し多くの買い物客で賑わっていた。

次にナント種苗宇陀育種研究農場を訪ねた。奈良県の種苗会社はスイカの育種が有名で県内7社で全国の約80%のシェアを占めている。ナント種苗もスイカの育種から始まり紅小玉を最初に育成したそうである。担当者の田中亮太氏から育成したスイカやメロン、ピーマン、ブロッコリーなどの新品種の説明やほ場で育種中の系統の説明を受けた。

当日は晴天で暑かったが、会員らは熱心に耳を傾け、有意義な研修となった。



まほろばキッチン



ナント種苗